

第3回「ICT超高齢社会構想会議WG」議事要旨

1. 日 時：平成25年2月14日(木)16:30～18:30

2. 場 所：合同庁舎4号館共用108会議室

3. 出席者：

(1) 構成員

金子主査、秋好構成員(臨時)、池谷構成員、石井構成員、石垣構成員、石原構成員、泉構成員、伊藤構成員、今井構成員、岩崎構成員、宇佐見構成員、大木構成員、梶原構成員、鎌形構成員、神崎構成員、神田構成員、木俣構成員、吉川構成員、黒須構成員、小林構成員、園田構成員、高橋構成員、田上構成員、田澤構成員、萩田構成員(主査代理)、檜山構成員、藤沢構成員、堀池構成員(臨時)

※ なお、オブザーバとして、ICT超高齢社会構想会議から、小尾座長代理、近藤構成員が出席

(2) 総務省

阪本政策統括官、谷脇大臣官房審議官、佐藤情報通信利用促進課長、佐藤情報通信利用促進課課長補佐、吉田情報流通高度化推進室長、桜井情報流通高度化推進室課長補佐

4. 議事要旨：

(1) 開会

(2) 議事

① 構成員によるプレゼンテーション

田澤構成員より資料2-1、秋好臨時構成員より資料2-2、藤沢構成員より資料2-3、泉構成員より資料2-4、堀池臨時構成員より資料2-5、小林構成員より資料2-6に基づき、それぞれプレゼンテーションが行われた。

② 意見交換

構成員からのプレゼンテーションを踏まえ、生きがい・就労やコミュニティ・社会参加などの領域におけるICT利活用のあり方について、各構成員から以下の意見が出された。

(金子主査)

- ・ ICTを利活用することで、市場へのアクセスに要する取引コストを下げ、需給の適切なマッチングが図られる。その点で、潜在的に能力を有し、資産を有する高齢者がICTを利活用し、需要者としても、消費者としても市場にアクセスしやすくすることが、今後の成長戦略の鍵になる。

(大木構成員)

- ・ 今後、高齢者がアクティブな生活を送る上でも、ICTを活用してもらうことは必須であり、高齢者のICT利活用を促進するためにも、高齢者同士で教えあうサポーターの仕組みや通信費負担を軽減するためのフリーミアなどの仕組みが重要である。

(萩田構成員)

- ・ 定年退職後もボランティアとして活動を続けるアクティブな高齢者が、テレワークの仕組みを効果的に活用すれば、新しい働き方が生み出せるのではないかと。

(宇佐見構成員)

- ・ 高齢者が自らの保有する知識や能力を活用して社会との関わりを持つための方法として、クラウドソーシングが考えられるのではないかと。また、タブレットが普及するまでは、テレビなどのデバイスを活用できると良い。

(岩崎構成員)

- ・ シンガポールにおいては、5世帯、5人組が一つの単位となって高齢者の介護等を行う法的制度がある。こういった法的な枠組みを日本においても、行政が取り入れてもよいのではないかと。

(池谷構成員)

- ・ クラウドソーシングの領域においては、発注者と受注者とのつなぎ役としてのディレクターの役割が非常に重要である。豊富な経験と高い管理能力を持つ高齢者は、このディレクターとして活躍できる可能性が高く、今後はその育成が重要であると考えている。

(吉川構成員)

- ・ 現状、ICTを十全に利活用するには、高齢者のスキルレベルやリテラシーは十分ではなく、そこに対して支援をする必要がある。また、高齢者のICT利活用を促進する上では、若者が教えるのではなく、高齢者同士で教え合うことが重要なポイントである。

(石原構成員)

- ・ ICTの利活用においては、仕組みを提供するだけでなく、サポートといった運用の部分についても考慮する必要がある。このサポートの部分において、テレワークが活用できる領域もあるのではないかと。
- ・ ランサーズ社のクラウドソーシングにおいて、ビジネスとしてうまく回っている人はどれくらいか。また、発注者が受注者を指名する形はあるか。

⇒ (秋好臨時構成員)

11万人の会員中、継続的に報酬を得ている会員は1,000名程度、年収300万以上を達成している会員は100名程度である。全体の4割が個人の能力に基づく指名発注である。

(園田構成員)

- ・ 地域でのコミュニティ形成の取組において、高齢者に主体的に参加してもらうためには、経済循環性の観点が重要である。具体的な試みとして、高齢者の取組への参加に対して、地域通貨を対価として支払い、行政・福祉といったサービス等に利用してもらうといった成功事例がある。

(3) 閉会

以上